



しろね図書館だより

No.112

発行 新潟市立白根図書館
平成21年9月発行
(毎月第1水曜日の翌日発行)

予約ランキング

ただいま人気の本です。
しばらくおまちください。

- 1位 1Q84 1・2 (15名)
- 2位 パラドックス13 (9名)
聖女の救済 (9名)
- 3位 贖罪 (5名)
運命の人 3 (5名)

この夏、図書館ではたくさんの子どもたちが図書館のシゴトを体験しました。7月26日(日)の「図書館員になってみる日」では、8人のおともだちが本の貸出や、本を棚に戻す作業にチャレンジ！このほかにも図書館では、夏休みのあいだ、中高生のみなさんの職場体験を受け入れしました。

ぜんぶで6校15人の生徒さんが図書館のシゴトを体験してくれました。カウンター業務のほかにも、本の整理や修理など、いろんなシゴトがあることにビックリ。みんな、はりきって取り組んでいましたよ。楽しい夏休みの思い出の1ページになるといいですね。今度は本も借りにきてね☆

★感想をひとこと！★図書館にはいろいろなヒミツがあった★ハズかしかったけど、ちやんとできてよかったです★楽しそうに見えたシゴトも、とてもタイヘンでした★ムズかしかったけど、本が自分のお家に帰れないのはイヤだからがんばった★とても楽しかったです★



変身！ひと夏の図書館員

へんしん！
ひとなつのとしよかんいん



8月の

来館者…… 22,603 人
貸出冊数…… 16,385 冊
予約件数…… 319 件

たいせつなお知らせ

9月27日(日)は、

トキめき新潟国体の開催のため、臨時休館とさせていただきます。

これに伴い、ブックポストも前日の午後6時から使えなくなります。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をおねがいたします。

8月は、学校が夏休みのため
ブックバスはお休みしました。





図書館員がおすすめするこの一冊

(児童) 490ヒ
日野原重明 文
村上康成 絵
講談社

この本は95歳を超えた今でも、現役の医師としてご活躍されている日野原重明さんが小学校でいのちについての授業をおこなった様子を絵本にしたものです。日野原重明さんといえおたびたびテレビに出演されていたり新聞で連載をお持ちになっていたこともあるので知っている方も多いことと思います。また、本業の医師としてのご活躍はいうまでもなく、『生きかた上手』『いのちの授業』など200を越える多くの著書をお持ちの方です。著書を読んだことがあるという方も少なからずいらっしゃるのではないでしょうか。(図書館にも何冊か所蔵があります。興味のある方はぜひ!)

この本の元となった授業は当時95歳の日野原さんが小学校4年生の生徒たち30人に対して“いのちってなんだろう? いのちはどこにあるんだろう?”という問いかける内容でした。小学4年生というと約10歳。10歳の子どもたちにとっては少し難しい問いかけかもしれませんし、なかなか普段真剣にじっくり考えることがないことかもしれません。だからこそのいのちについて考えるきっかけとして、かわいらしい絵と読みやすい文で分かりやすく描かれているこの本を手にとって欲しいと思います。



最後には日野原重明さん自身が考える“いのちってなんだろう? いのちはどこにあるんだろう?”の答えが書かれています。95年の月日を生きてきて、かつお医者さんとして人の生と死を見つめてきた日野原さんの答えに私はとても重みを感じました。きっと人それぞれ回答は違うと思いますので自分なりの“いのちってなんだろう? いのちはどこにあるんだろう?”という問いの答えを探してみたいかがでしょうか。(小林 牙子)

ことし

こわ〜いおはなし大会がやってきました!



夏休みのお楽しみ! こわ〜いおはなし大会が8月8日(土)に催されました。

今回も、「黒いお姫さま」「骨をかじる女の子」「こんな顔」など、世界中からたくさんのおはなしが勢ぞろい。子ども73人、大人36人、あわせて100人を超えるみなさんが真夏のキョーフを味わいました。しろね図書館では、このほかにもいろんな催し物を予定しています。またあそびにきてね!



おみやげには、こんなステキなプレゼントも!

『三面記事小説』

角田 光代 著 (文藝春秋)



あんなフツツの入りが、

あんなコトするなんて……。

あなたも滑り落ちるかもしれない
“もうひとつの”記事の向こう側。

現実にあった新聞の三面記事をもとにした短編集です。

平穏な日常が一変する、その瞬間。
背筋が寒くなるような、
暑気払いにもってこいの一冊です。

★★★★★ 参加者の感想から ★★★★★

- ・小さな三面記事から生まれた短編が、6つおさめられている。どの作品もとてもリアルに感じられて恐ろしかった。暑気払いにぴったりだった。
- ・裁判員制度が始まったので、こんな小さな記事でもいろいろと考えさせられた。小さな記事にどれほどのことが隠されているか想像しないといけない。
- ・「この小説は実際の事件を発想の発端にしているが、フィクションであり事実と異なる。」と、「こわろが書いてあるが、記事になった人や関係者が読んだら、どんな風を感じ、どう思っかと思える」と複雑な気持ちになる。
- ・人間関係、家族、教育、時効、介護の問題など現代社会を浮き彫りにしている作品ばかりだった。ハッピーエンドではないので読み終わった後に、憂鬱な気持ちになる。
- ・同じような事件が繰り返されているのが、じわじわ。
- ・時代背景を想像しながら読むと、またひとつ違ったおもしろさがあった。
- ・「愛の巣」の最後の場面がよくわからなかった。前半にも「日傘」が出ていたので何か象徴的なものなのだろうか。
- ・「永遠の花園」「赤い筆箱」は女子中学生が登場する。思春期の心理や微妙な人間関係が事件へと発展していくのが印象的だった。
- ・「光の川」が介護の問題で一番身近だった。これから自分に、おこりうる話なので一番こわく感じた。息子が一生懸命に母の介護をしていただけに結末が切ない。この息子と母は現世では親子関係だが前世・来世では別の関係なのではないかと感じた。また、娘と母の関係も虐待のようなだが同性だからその難しさがあつたのではないか。お互いに親離れ、子離れしなければいけないと思った。ラストが介護の話で終わっているのは意味があるのかもしれない。

次回の読書会

9月20日(日) 14:00~



罰がなければ、
逃げるたのしみもない

砂の女

安部 公房 著 (新潮社)

珍しい虫を求め、砂丘の部落を訪れた一人の男。
そこで一夜の宿を求めた家は、
なんと埋もれゆく砂の底。
男は、ある女とともに
そこに閉じ込められてしまいます。
引きとめる女。逃れようともかく男。
二人の奇妙な同居生活が始まります。
そして、ついに訪れた脱出のチャンスに、男は……。



インディアンに伝わるおはなし

子どもたちといっしょに

太陽へとび矢



ジェラルド・マクダーモット さく
(ほるぷ出版)

昔、太陽の神が、いのちの力を一本の矢に変えて飛ばしました。
いのちの矢は、ひとりの娘にあたりに、やがて娘は男の子を生まれます。
大きくなった男の子は、お父さんを探しに出かけていくことに……。

真夏の太陽がちょっと恋しくなる季節に紹介するのは、
アメリカのインディアンに伝わる神話を元につくられた
おはなしです。モザイク柄をデザインしたような絵は、今にも
動き出しそう。一度見たら忘れられないほど印象に残ります。
鮮やかな色使いが、おはなしの雰囲気と力強い生命力を感じさ
せてくれます。どうぞお子さんと一緒にお楽しみください。



今年の高校野球は、
越後人にとって、
とってもアツい夏になりましたね。
でもこれからは、涼くなって
スポーツをはじめるのに
もってこいの季節。



そして、もうすぐ
トキめき新潟国体もはじまります。
9月の展示架は、
スポーツを楽しむ本や、
読んだだけでスポーツした気分
にひたれる(?)本のご案内です。



9月の行事

9月5日(土)

絵本のじかん 14:10~
おはなし会 14:30~

9月12日(土)

おはなしかご例会 10:00~
絵本のじかん 14:10~
おはなし会 14:30~

9月19日(土)

絵本のじかん 14:10~
おはなし会 14:30~

9月20日(日)

読書会(ル42) 14:00~

9月26日(土)

雑誌リサイクル
絵本のじかん 14:10~
おはなし会 14:30~
※かご例会はお休みです

 ブックポスト閉鎖
18:00~

9月27日(日)

臨時休館いたします

9月のブックバス

☆9月7日~10月8日までの予定を載せています。

☆9月21日~22日は祝日のため運休します。

コース	学校	停車時間	巡回日
月A	庄瀬小学校	13:10~13:40	9/7 -/- 10/5
火A	大通小学校	12:50~13:30	9/8 -/- 10/6
木A	新飯田小学校	10:10~10:30	9/10 9/24 10/8
	味方小学校	13:15~13:45	9/10 9/24 10/8
月B	根岸小学校	児童限定	9/14 9/28
火B	小林小学校	児童限定	9/15 9/29
	白根小学校	13:00~13:30	9/15 9/29
水B	白井小学校	13:00~13:30	9/16 9/30
木B	茨曾根小学校	10:15~10:35	9/17 10/1
	大鷲小学校	児童限定	9/17 10/1